



1900万人達成。と知る喜び

先日（平成25年6月8日）、かみね動物園では昭和32年(1957年)の開園以来、来園者の累計が1900万人に達しました。見事1900万人目となったお客様は、水戸市からお越しの坪井様ご一家で、地元新聞などでも華々しく紹介されました。イメージキャラクターのかみねっちょの出迎えを受け、盛大にクスダマを割られた坪井様はとても驚いた様子で、一緒に来られた息子さん達も興奮していました。

ここ数年、100万人刻みでやっている到達式、年間の来園者を考慮すると2000万人は3年後となる予定ですが、できればもっと早く次のクスダマを割りたいと思います。



坪井さんご一家…おめでとうございます

当日は土曜日だったのですが、この日は動物園で初の試み、4週連続のわくワークショップ開催の初日でもありました。若い飼育員達が考えた参加体験型の動物教室…とでも言えばいいのでしょうか、この日は鹿の角を利用したの小物（ストラップ）作りに挑戦。というもので、前段は鹿の角の生え方についてのウンチクもので、子供さんに限らずお父さんお母さんも、ヘー、ヘーの連続で、うしろで見ていた私もすごい手ごたえを感じました。いわく、鹿の角は毎年自然に落角し、また生えてくること、生え方も段階を踏むこと、角のあるなしで性格的にも変わることも、オスにしか生えないこと、などなど。この様子は別ブログ「動物園日記」に早くも掲載されていますので詳しくはそちらをご覧ください。



みんなで考えよう

動物は、普段見慣れていてもあまりにも知らないことが多すぎます。私もこちらに来てから色んな事を学ばせてもらっていますが、それでも知らないことがまだまだ山ほどあります。それを知った時の「へー」感は、軽い衝撃とともにいくばくかの快感をももたらせてくれます。知らないことを知る喜び、そこから子供さんだけでなく、大人の方も動物や生き物に興味を持ってもらうことが私たちの役目でもあり、またそういう取り組みを積極的に仕掛けていかななくてはならないと思います。



どんなストラップが

この間、庭で草取りをやっていると「ヒエー、ちょっと来てー」という妻の叫び声が。庭木の剪定をしていた妻が指差す先には姫リンゴの木が。その枝のあっちこっちには5ミリメートルぐらいの茶色い玉状のものがびっしりと生えて(?) いました。おぞましい光景に目を奪われていると「これ何かの卵?」「さあー」。

こういう時インターネットは便利です。適当な言葉で検索してみると、それは卵ではなくまさに虫なのでした。カイガラムシの仲間**タマカタカイガラムシ**というのだそうです。

幼虫は、成虫の殻に産みつけられた卵から孵ると外へ這い出して動き回るのですが、成虫になったメスは樹液を吸うために枝にへばりつくすと足は退化し、固い殻に身を閉ざしながら一生をそこで終えるそうです。一方、オスはやがて羽が生え、動かなくなったメスに交尾し

まくる（へんな表現かな？）という、自分だけ自由でいいわね的生涯なのだそうです。しかし、貝殻のような固い殻に守られじっとしているメスは常に樹液を吸うことができ、また捕食される心配もなく、殻の中で安全に子供を増やせます。交尾にしても、出会いを求める必要がない分確実な子孫繁栄が可能となります。人間にとって厄介な害虫扱いはされますが、小さな虫なりの生き残り戦術なのでした。これまた知る喜びを十分満たしてくれる「ヘエー」の世界であります。

（補足）写真を撮ってなかったのが残念。（ネットでさがしてね）

知的好奇心が満たされる動物園…話が若干それましたが、「わくワークショップ」はそんな可能性を秘めながら発進しました。次回は「ほねホーネ教室」。私も参加したいのですが、次の土曜日はなかがわ水遊園でかみねっちょとキャンペーンをやってきます。関心のある方は、どうぞ動物の頭骨から知る驚きの発見に参加してみてください。

「どうぶつのくに」で好評(?)連載中の

「[あっかみね動物園だ!](#)」VOL. 3がアップされました。よかったらこちらからどうぞ
[「どうぶつのくに」](#) (新しいウインドウが開きます)

2013年6月12日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)

[平成29年](#)